

会 長 最初に(1)の図書館の運営基本方針(案)について説明をお願いします。

館 長 図書館運営基本方針ですが、平成28年度にこの協議会でこれからの図書館のありかたについて御検討いただきました。その後、平成29から30年度にかけて、市民ワークショップ、利用者懇談会、平成30年度の3月にパブリックコメントまでいきました。その後、教育 振興基本計画の策定、公共施設マネジメントとの整合を図るため、更に内容を精査することになり今年度も引き続き御検討いただきたいと思います。本年度の第1回の協議会では、昨年度末のまとまったものを提示させていただきました。今回新しくなったものを説明させていただきます。こちらの運営方針はあくまで方針です。詳細な事業は、その都度御意見や御検討いただきます。

先に申し上げておくべきでしたが、報告事項の後にフリートークで御意見をいただきたいと思います。その中で、事業の実施や事務内容について御意見をお聞かせください。よろしくをお願いします。

資料は、見え消し版と資料1の見え消しでないもの、その後に新旧対照表がございます。対照表を中心に説明させていただきます。

最初に変わった点として、目次ですが項目の番号が変更されています。次に2ページです。上位計画との関係性を7ページだったものを2ページへ移動しました。図書館運営基本方針の期間は平成31年度から7年間でしたが、今年度末の策定となり令和2年度から6年間と訂正しました。次に計画の期間を追加しました。基本構想について評価指標案が19ページあります。こちらが2018~2025となっているため、計画の期間をいれさせていただきました。次に3ページの現状と課題ですが、書いてある順番を変えました。何故かという30年度版は下段に県内市立図書館と比較すると市民1,000人当の蔵書冊数、貸出冊数や専任職員1人当の奉仕人口はと続いています。こちらの現状→課題→現状という流れを、現状→課題とするように変更しました。体系は9から12ページにあり、9ページは変わっていません。10ページから施策の一覧があります。大きな変更はありませんが、若干修正しています。別表1の新旧対照表(2)施策の一覧表の通りとなっています。楽しむは変更がありません。役立てるにはデジタルアーカイブ推進による資料の保護及びデジタルデータの充実とあります。後ほど報告事項で説明しますが、図書館を中心として社会教育課、シティプロモーション課、市長政策室、IT政策課、文化振興課等を含めて横断的にデジタルアーカイブを進めていきます。他にも企業と連携した資料充実手段の研究を追加しました。現在の雑誌スポンサー制度以外にの手法について、東北では例があるようです。そういった部分を研究していきます。(2)の①に相互貸借の活用が重要なので追加しました。また、⑤にネットワーク等を活用したデジタルアーカイブデータの提供を追加しました。(5)広報活動・情報公開は体裁を整えさせていただきました。次に、つながるですが(3)市民との協働の③に人材バンクや図書館支援等の仕組みづくりの検討とありますが、より市民の参加を進めた図書館運営の仕組み作りの研究としました。(4)のシティーミュージアムは伸ばさないシティが正しいので訂正しました。つくるの(3)施設のあり方の検討の①は「掛川市公共施設等総合管理計画」から住民説明会を行っている「掛川市公共施設再配置方針」となっています。そちらにそって訂正しました。次に14ページの(1)図書館資料の充実とありますが、そちらにデジタルアーカイブを追加しました。同じく(2)の貸出、情報サービスの部分ですが、②、⑤の書き方を修正しました。15ページの施設の維持・活用ですが、蠟人形の展示だけでなく展示及びイベントに訂正しました。次に16ページですが(3)市民との協働で図書館支援以外に③市民力を生かし、市民の活躍の場を広げるとともに、より市民が参加する図書館運営を進めるため、市民協働の仕組み作りの研究を進めます。と訂正しました。17ページ(3)施設のあり方の検討は「掛川市公共施設再配置方針」としました。18ページの三館の役割(3)の大須賀図書館について、立地・施設の特色部分にまた、「掛川市公共施設再配置方針」以降を追加しました。19ページについては、新旧対照表の最後のページを御覧ください。こちらの昨年の数値は平成29年度データのため、平成30年度のに訂正しました。それに伴い増減率が変化しています。また、下の(参考)部分で、「貸出密度上位の公共図書館・2017」を2018に、人口当貸出点数は人口10~15万人は10.8を10.6に変更しました。昨年度ほぼ完成しており、大きな手直しはありません。表紙や各ページにイラストをいれました。表やタイトル等の表示を見やすくしました。

説明は以上でございます。よろしくお申し上げます。

- 会長 数値や項目立てを変えたとのこと。見え消しの方を見た方が変更が理解できると思います。御意見や質問等いかがですか。
- 委員 市民力とありますが、以前から記載されていましたが。
- 館長 記載されていましたが。奥野前館長時に確認しました。
- 委員 一昨年から継続の委員さんは見たことがあると思います。特に大きな付け足し部分として、役立てるのデジタルアーカイブの点が明確に推進するとなっていますね。
- 委員 10ページの役立てる(1)－④で企業と連携した資料充実とありますが、市内の企業から資料が来るのですか。
- 館長 これは研究段階のため、実施していません。例として、東北の被災地で本を扱う企業に買い取りを希望する方から本を送ってもらいます。図書館は希望の本を伝えておき、希望した本があれば企業から図書館に送付します。重複する場合は買い取る形となり買い取った金額を寄付とします。売却益の原価部分を寄付するので企業は損をしません。図書館に間接的に寄付という形となります。被災地という部分もありますが、企業としては拡大したいとのこと。こちらでその手法が成り立つかを検討中です。その他の方法等により蔵書充実の研究をしていくということです。
- 委員 この企業は、本を扱う企業ですね。
- 館長 そうです。他の業種の企業ともどのように連携できるかといった方法を今後は研究していきます。市の財政以外の方法として検討しくつもりです。
- 委員 次に18ページですが、大須賀にいと掛川市の公共施設について、統廃合により減っていく心配がある。大須賀地区がどうなるかと考えて、少し何処かに行った帰りに図書館に寄れば多少でも来館者が増える。なくなるのではないかと心配になるがどうか。そういった事に一般の方は関心がない。なくなってから知って驚いたりする。あまり少ないないと言うのもどうかと思うが、入館者を増やそうと努力している。存続の形で今から話をしてもらいたい。図書館は最初に目をつけられると思うし、なくなると困るのでこういった場で考えていきたい。
- 会長 この部分は、将来の施設のありかたを研究するとしている。以前にも話が出ましたが、複合型の施設として一体化して効率化すること。そういったものを研究するのであって、図書館をなくすものではないと考える。協議会としても機会があれば提言していく。地域のニーズとしては、当初4キロ以内に一館が理想となっていた。現状ではそうならないとは思うがどうか。
- 館長 会長の仰るとおりです。再配置方針では図書館は複合化であり廃止とはなっていません。それだけ重要だと認識していると思います。学校、公民館等との複合化もあり、その中でどうあるべきかを研究します。
- 委員 公共施設再配置方針を見ましたが、確かに研究を進めるとなっておりなくなるとは思っていません。しかし、小さい文字の一覧表では、農村環境改善センターはなくなるとあった。そこで、講座や習いごとをしている人はどうなるのか。図書館だけではなく他の施設も考えるとインパクトが強く、市民としては脅迫的イメージがある。
- 委員 研究を進めた結果ではなく、途中段階で話し合いが必要ではないか。
- 会長 協議会として、今後の準備会等で市民が参加すると意見交換ができるようにと要望したらどうでしょうか。実際には中央館の時も準備に時間がかかった。先進地の視察を行ったり、意見を聞いたりした。評議委員としても強く要望したい。
- 私の意見ですが、デジタルアーカイブを推進するとなっているが、昨年から国立国会図書館のデジタルアーカイブの開放をしている。資料を閲覧したり複写したりできるようになっている。しかし、ほぼ利用者がいない。0に近い。何故かというところ**インフォメーションする**場所がない。今後、デジタルアーカイブを進めるだけでなく利用をどうするのか。浜松市の中央図書館がデジタルアーカイブ室を設置して手作業でスキャンしていた。それぐらいの作業が必要。本腰を入れて予算をつけて実施する必要がある。他の用意されているものではな

く、掛川独自の郷土資料を行う必要がある。もちろん紙ベースは大事に保管する。

委員 以前、袋井市の治水関係の資料展示を見た。以前、三城展で借りたように手作りのものがありとても興味深かった。しかし、それを皆さん知らない。知らせる方法が重要で興味のない方は知らないまま終わることも考えられる。副知事の12月の講演も地域で話したが誰も知らなかった。資料があったり、講演会があっても知らずにも過ぎていく。

会長 広報の問題がある。どのように繋げるか。今日図書館内を見た方はいますか。とても手をかけている。ポップも素晴らしい。ツイッターにあげている。但し、いいねは2つです。知らないというか、広報の問題がある。これだけのことをして、誰にも伝わらない。いい試みも広報が上手くいかない。各地区の自治会に広報誌を送っているが、関係者しかいない。一般住民が見ない。地域に配るといいのではないか。市民と図書館を繋げるための工夫が必要。各館は通常業務以外に頑張っているが、おいしいと考える。役立てるにも繋がると思う。HPは皆見ないです。ハードユーザーのみ見る。SNSはどうか。ツイッターのフォロワーは200までいっていない。わずかの数である。そこをどうするか。大変な労力に見合っていない。子どもが見たら喜ぶと思う。3館とも非常に努力しているので、上手い広報、情報公開ができたと思う。
デジタルアーカイブも同様に考える。

館長 そういった具体的な手法は後ほど御検討願います。これは運営方針なので、こういった内容になります。あまり縛りすぎないようにしています。
今後は1月に議会の全員協議会でパブリックコメントについて報告します。その後、1月下旬から2月下旬にパブリックコメントを実施します。その後、いただいた御意見について、3月に協議会を開き内容説明や修正を行います。その後、最終の修正をして公表します。

会長 各委員はパブリックコメントに是非御意見いただきたいです。別のパブリックコメントでは、意見が10件にも満たないということがあったと聞く。是非、コメントしましょう。以上でよろしいでしょうか。
これで、質疑は終了とさせていただきます。報告事項をお願いします。

5 報告事項

- (1) 「令和元年度 静岡県図書館」について (資料2)
- (2) 令和元年6月以降の事業実施状況・予定 (資料3)
- (3) 平成元年10月末までの利用状況 (資料4)
- (4) 図書館関係事業
 - ① かけがわ図書館フェスティバル(10/27～11/9) (資料5)
 - ② 第13回かけがわ教育の日(11/16) (資料6)
 - ③ 静岡県図書館大会(11/18) (資料7)
 - ④ 夜の図書館(12/20) (資料8)
- (5) 「かけがわ歴史文化デジタルアーカイブ」構想について (資料9)

館長 資料2を説明します。静岡県の図書館の令和元年度版ができましたのでお配りします。その中で特徴的なのは42ページですが、平成30年度の市立図書館・サービス指標とあります。1,000人当蔵書冊数、受入冊数、貸出冊数、専任職員1人当奉仕人口の各種データが記載されています。一人当資料費決算額は掛川市は低いですが、蔵書冊数は3位、受入冊数は平均以上、貸出冊数は3位です。専任職員は7位で去年と同じです。全般的に資料費が下がっています。以上です。

会長 大きな変化はないということですが、どうでしょうか。概ね5番目位には位置している。御前崎は別として蔵書数は誇れる。御前崎市は倍以上で比較にならない。

委員 御前崎市も段々と減っている。

会長 教育費用の全般について言えますが、結果が目に見えないのでカットしやすい。本を買ったからどうかとなる。ここが難しく、10年20年のスパンで心豊かな市民が育っていると言わざるを得ない。決算をどうするにも既に終了している。次年度予算は副市長等にカットしないように伝えてもらいたい。県全般の動向ということでもいいですか。

主 幹 (2)は資料3です。6月以降の事業実施状況と12月までの予定です。資料全体で98件の事業があります。左からNo.、月日、事業名、主催者、実施場所、新規の有無となります。訂正をお願いします。No.16ですが、古文書講座第3回は継続のため○を削除願います。新規事業を説明します。No.7の6月17日、19日の横須賀高校よみきかせ講座です。5p下段の新聞記事を御覧ください。横須賀高校2年生の約20名が保育実習に向けてよみきかせの講座を受け、講師として大須賀図書館の澤島係長が子どもを引きつけるリズム等について講演しました。続いてNo.49です。9月10日に中国青年団の公務員、農業関係者60名が大東図書館の亀治郎を見学しました。4ページ右の記事として都市部、農村等の地方行政の点からゴミ減量が2位で1位は東京小金井市ですが、掛川市に地方行政を学ぶために環境政策と農業振興を研修した際に立ち寄りました。No.にありませんが、5ページ上段の記事です。2代将軍秀忠の母である西郷の局の作品発表です。今後も年間で約100件程度の事業を各館の特性を踏まえ実施していきます。

会 長 10月29日に大須賀図書館で夜のハロウィン図書館がありかなりの入館者があった。

澤 島 ハロウィン図書館ですが、夜の5時から7時まで開館しました。館内のチラシよりも口コミで知った方が主でした。親子連れを中心に80名ほど来館しました。全体的に照明を落としほぼ真っ暗な書架の間を懐中電灯を持ってハロウィン衣装を準備して探検してもらいました。中には、自分のハロウィン衣装で来館される方もいました。本と無関係ではと思いい、このゆびとまれさんに御協力いただき読み聞かせをしていただきました。

会 長 子どもは暗い所好きで中央館にもチラシがありました。惜しみない努力をしているが何百何千の来館者とはいかず、少しでも図書館利用に繋がればと思う。

主 幹 資料4は掛川市市立図書館の利用状況ですが、中々厳しい状況です。上段から中央館、大東、大須賀図書館となっています。入館者数、貸出冊数は大須賀以外はマイナスです。前資料で御説明通り新規事業14を加えましたが、入館者数は6の減で、貸出冊数は80の減となっています。BMの貸出冊数も約700の減となっています。大須賀以外は全てマイナスです。分析しながら減少理由を特定するようにしています。また、増えている点にも注目して対応していきます。

会 長 厳しい状況ですが、大須賀館は増加している。書架点検を含めて開館日数はどうですか。1日違うと大分違うが、どうでしょうか。

係 長 中央館は10月までは±0とです。祝日開館の関係で大東大須賀は減っています。全体としては、3日間の減となっています。結果として入館者数は減っています。前回も話しましたが、学校司書のおかげで、学校図書室が充実した結果学校図書館に行くから図書館にこないのかなと考えています。今後の行事等を通じて、回復するように努力していきます。

会 長 3日減はあるが、学校図書館は貸出が増えており司書さんが全校配置なったおかげでしょうか。司書さんは知っていましたか。

委 員 他の学校は分かりませんが、本校は増えています。図書担当の努力によるため一概に増えているとは言いきれません。校内の図書は充実しています。情報発信もしています。そこから図書館に行くかという子ども達が個人ではいけない部分もある。親が連れて行くしかない。高学年はいいが他の方向にいつてしまう場合もある。校内でも本に興味を持ってもらうにはどうするかというのがある。中央や大東のポスターが点在しているので、図書館コーナーとして紹介が必要かなと思います。

館 長 補足しますが、学校図書館における児童一人当の貸出冊数は、平成27年度は26.6冊ですが、平成29年度には34.3冊となっています。約8冊と確実に増加しています。

会 長 最初に図書館のターゲットをどうするかと考えた時に主たるターゲットは子どもとシニアだとしています。子ども達はあまり変わらないと思うが、シニアの利用が減っているのかな

と思う。確かに、毎日来ている方もいるが、新しいシニアの方が減っている。これからは、子ども達以外にシニア層をどうするか、時間があれば読書をどうぞといったキャンペーンが必要と考える。3月31日までの統計で変化するとは思いますが。

ちなみに図書カードの発行数はどうですか。

館長 利用しない方も含まれており、更新が3年前からです。平成30年末で98,000です。人口に対して今後更新作業で減っていきます。例えば、100歳の方の登録がありますが、異動について連絡をいただかないと分からない。今後は5年で更新なり本来の数に近づくとと思います。図書館で更新はできます。職員が窓口で作業を行います。

委員 図書館に来ない方のカードはどうなりますか。

館長 失効して消去されます。

会長 私の地元は8件家があるが、近所の方はカードを持っていないし作っていない。こういった方がつくると小学生は別として増えるのではないか。居場所として図書館がいい場所になるようにしたい。図書館の地下会議を畳にして寝っ転がるようにする。本を借りた方は使用できるようにしたらどうでしょうか。

係長 資料5の図書館フェスティバルに関する報告となります。

秋の読書週間の10月27日から11月3日に図書館フェスティバルを実施しました。10月27日には大東館でこどもとしょかんまつりを実施しました。活動グループさんによる読み聞かせ、パネルシアター等を行いました。写真にあります、キャタラーさんが理科的な公開実験を行いました。参加者は821人とありますが、終日これ位の数の方が参加してくれました。

中央館では、椋鳩十さんのお孫さんが講演会を行いました。椋鳩十さんの奥さんの実家が掛川市でお孫さんも掛川にも来たことがあるとのこと。活動の基本は鹿児島ですが、掛川で公演していただきました。その他にも活動グループさんが短歌を飾る等、日頃の成果を発表されました。会長にもビブリオバトルを開催していただきありがとうございます。

大東図書館では、ぬいぐるみのお泊まり会を行いました。夜の図書館を本人の代わりに過ごしてもらいました。皆さん数多くの工夫をして多くの方に御参加いただきました。以上が図書館フェスティバルの報告でした。

委員 講演会参加者数の84人はどうですか。

係長 少なくはないです。掛川以外からも多くの方に参加いただきました。教科書にも載っている方なので集客力がありました。

委員 講師の方が自分に本を持ってきて売り込みました。

係長 サイン会も行い好評でした。

委員 図書館フェスティバル2019でひまわりは10月30日に午後3時から午後4時までおはなし会を行い80人位来ました。図書館フェスティバルの報告でおはなし会5回の内1回がひまわりでしょうか。

会長 よみきかせも重要なイベントですのでよろしくお願いします。また、こどもとしょかんまつりも1,000人もの方が来る大東図書館で行う重要なイベントだと思います。

係長 ひまわりさんはその他のイベントになっていました。申し訳ありません。

主幹 次に資料6を御覧ください。第13回掛川教育の日を11月16日(土)に行いました。基調講演として家庭教育プロデューサーの酒井勇介氏に「賢い子に育てる8つのポイント」を御講演いただきました。左下に記載されていますが、図書館では古本市を開催して微力ながら参加させていただき図書館に興味をもつていただく場を設けました。

会 長 毎回それなりの人が来ますね。講師の関連図書を飾れるといいと思う。

係 長 次に資料7の静岡県図書館大会について報告させていただきます。委員さんにも御参加いただきました。11月18日（月）にグランシップで県の図書館大会を行いました。当日の流れは基調講演の後、6つの分科会がありました。新聞にも載りましたが、基調講演で大学の先生の傍ら、図書館プランニングも手がける太田剛氏と林左和子浜松文芸大学教授が「ソーシャル・イノベーションを巻き起こす図書館へ」と題して講演されました。この中で特に印象に残ったのが、「ちょっと一手間かけるてやる」という部分でした。人も金もない中で、どう魅力を作るかは職員のちょっとした一手間とのことです。大須賀図書館で行った夜のハロウィン図書館でもお金をかけずに手作りで行い、お化け屋敷もシーツをかけるだけで子ども達が喜びました。お金をかけずに子ども達が楽しんでわくわく喜ぶ仕掛け作りを行いました。中央図書館でも、ハロウィンの時期にかぼちゃのぬいぐるみを書架上に置くだけで気分が盛り上がりました。クリスマス時期も同様に雰囲気があります。100ショップで買った物を置くだけでも違います。その様に手間をかけてやるのが、言葉は違うかもしれませんが集客に繋がり図書館に来ようとなります。私は防災に関する第1分科会に参加しました。東日本震災で亡くなられて方はいなかったとのことです。よく言われるのが、台形状の棚をメインにすれば大丈夫とのことです。しかし、その様な処置を行うには面積分のお金がかかります。直接の被害がなくても、天井の水道管が割れて本が水浸しになった所もあり構造的な問題が生じないよう設計段階から注意が必要と聞きその通りだと思いました。今回は全部で27人が参加され学校司書さんが沢山参加いただきました。ありがとうございました。説明は以上です。

会 長 全図協から言われるのは、県単位でこのような大会を実施しているのは、静岡だけと言われます。この状態が当たり前と思うができないらしい。学校、市民等が参加する図書館大会はないとのことです。その点で今後も色んな形で盛り上げていただきたいと思います。

委 員 今年が開場が埋まらなかったと聞いた。

会 長 例年は満杯でしたね。

委 員 講演で有名な作家さん等を呼ぶといったインパクトがなかった。

館 長 大会の副委員長としてですが、委員の中でも色々意見がありました。テーマがもう少しという声がありました。

講演会の太田先生は非常に御活躍している方ですが、知るっている方と知らない方の差があった。実際に話を聞くと大変ためになりました。PRが少し足りませんでした。

委 員 開場で意見を述べた人も何回か参加しているが今までで一番良かったと言っていた。私は3回目だったが一番良かった。事前に参加者が少ないとは聞いていた。講師の方について情報が少なかった。何も知らないとせっかくの機会がもったいない。講師の方や講演の内容を知ると興味がわく。

館 長 講師の方が忙しくやりとりが直前になりました。ソーシャル・イノベーションというテーマは少し敷居が高いと感じた。

会 長 利用者と実務者で関心の内容に違いがある。一人くらいインパクトのある方も必要なと思う。

委 員 人数は減っていたが、内容は良かった。講師の名前だけで判断するともったいない。

委 員 「ニューヨーク公共図書館 エクスリブリス」という映画を見たが内容がすごく良かった。そういったタイムリーな読者の興味を引くような点を講演に生かして欲しい。図書館はここを頑張る必要がある。講演内容はとても良かった。

会 長 公共図書館の役割の広がりを見ると海外では公教育と一緒に役割を担っている。日本の

図書館は特異な形であり、そういった意味でも頑張っ

委員 所用で欠席しましたが、その前電話をもらった中で今回は職員も少ないと聞いた。職員や周りの人と話すとマンネリがあるとのことだった。そこであえて今年には行かないという人もいたが行けばよかった。林先生は地元で何回も聞いているという先入観がある。案内で聞きたいテーマがなかったり、去年と同じでは行かない。如何にしてPRするか。参加者に届くまでが大変。今年良かったので来年は期待したい。

委員 今回はバスの中が学校司書ばかりだと思った。3分の2は学校司書でした。皆さんが参加しなかった影響が全体に反映したと思う。

会長 次回は是非多くの方に参加していただきたい。

係長 次にこれからの事業になります。資料8を御覧ください。

PR不足と言われぬようにしっかりPRしていきたいと思

12月20日(金)に夜の図書館を行います。会長にも御協力いただ

次は裏面になります。初めての試みとして東部ふくしあ

会長 以上の図書館関連事業で何かありますか。では、次

館長 次に(5)の資料9になります。「掛川市歴史文化デ

図書館運営基本方針にもありましたが、デジタルアーカイブとは、美術館・博物館・公文書館や図書館の収蔵品を始め有形・無形の文化資源(文化財・文化的財)等をデジタル化して記録保存を行うことです。記録保存すればデジタルアーカイブと言えますが、それだけではデータを入れただけになります。次に期待される効果は資料の破損・劣化防止で貴重な資料を使用することで生じる劣化を防止します。データ活用による新しい表現の実現としてデジタルデータに解説をつけたりすることで、より膨らませた利用が可能

続いて2ページをご覧いただきたいと思

性が低いです。その様なところは避けるつもりです。

ウィキメディアにアップロードする場合は、デジタル化しました、メタデータをつけました、といったように情報をただ流すわけにはいきません。著作権のチェックや先程言ったメタデータを付けていくといった作業スペースが必要となります。それらを段階的にやっていきたいところですが、データの的にも量的にも早く充実させていくにはマンパワーが必要となるので、ボランティアの方にも関わっていただきたいと考えています。

事業内容と年次計画については決定していないので、こちらは無視してください。細かな部分になりますので、これ位必要といった部分です。取り扱いを注意していただきたいと思います。

では、実際どうかというのが3の活動事例です。ここで関西大学の教授がお二方がでていますが、台湾では木簡の写真を公開しています。それにより実物を見なくてもよくなり、写真を取り寄せなくてもアップされているものを使って、非常に多くの方が同時に研究することでより早く研究が進むという部分があります。②では、以前は巻物を見るのが大変でしたが、デジタルデータになることでクリックとスライドで全体を見ることができるようになり今までとは少し違った発見があるということが書いてあります。

教育での活用に関する効果では、立命館大学により新潟で行われた事例ですが、地域の映像について、学校で地域の人を招いてお話をさせていただく場合に活字や声で行うことができますが、そこで実際の映像を見ることでより内容がより具体的になります。お話のイメージは人それぞれですが、映像を見ることで一つのものに対して全員が同じイメージで話し合いができることに意義があります。視覚メディアは直感的に分かりやすい部分があります。それからウの部分ですが、メディアリテラシー能力の涵養に繋がるとあります。学習指導要領でも最近ではメディアリテラシーについてかなり出てきていると思います。ITの活用というのはかなり出てきています。そうした中で、大量のデータから自分がどれが必要でどの様にどれとどれとを関連付けるといった能力がこれから求められますが、そういった力を育てていく効果が考えられます。そういった内容が大学でまとめられています。

後、(3)として観光面等における効果ということで岡山県の津山市立図書館が紹介されています。こちらは、先程お伝えしたフリッカーを利用した公式ホームページを今年の3月に公開しました。公開して3ヶ月で24,000回以上閲覧されおり、そこにある写真を見て実際に見てみたいということで海外からも多くの方が訪れるといった観光的な効果もあります。それから公開している写真は見て楽しむだけではなく誰もがポスターやチラシの作成等に自由に使えるようになることで、色んな方が商売に繋がったりして新しい資料をつくるのに津山のアイテムが利用されています。図書館としては図書館資料のデジタル化が核ですが、それはデジタルアーカイブの効果の一面と言えます。お金をかけることなので、色々な効果があると考え、予算をつけるだけの価値があると理解して貰います。

これについては、情報推進化アドバイザーに入っていただき他の所にも話をします。具体的にどうすれば掛川市として効果がでるかを考えて予算獲得したいと考えています。以上です。

会 長 先程の運営方針の役立てるの(1)－③にデジタルアーカイブ推進による資料の保護及びデジタルデータの充実とありますが、今の説明でどうでしょうか。

委 員 要望ですが、学校で資料を使っています。地域資料は文字が難しく子供達が読みにくいです。後、フリガナがありません。アーカイブは小学生も読める配慮をお願いします。地域資料は大須賀中学校も地域の歴史を調べています。授業等で沢山使います。

会 長 国立国会図書館デジタル化資料の利用を考えるとデジタルデータの研究にして欲しい。充実ではなく研究でないと理解してもらえない。今の内容ではとても予算をつけるのは難しい。国立のデジタルデータも利用者はほぼ0で年間に約30万程度かけている。これが研究ならいいが充実は難しいと思う。他の委員さんは郷土史家としてどうでしょうか。

委 員 郷土史研究家として言うと、資料は掛川市として非常に価値がある。掛川、大東、大須賀とそれぞれ歴史があり、地域の特徴があり図書館もいい配置となっている。図書館として資料が充実するのは素晴らしいし、注目されるきっかけになると思う。

以前、掛川二の丸美術館で高天神城や横須賀城の展示をした。私も横須賀城の絵があると聞いた。殿様のご子息の屋敷が靖国神社の近くにあったが、太平洋戦争で空襲にあった。そ

の方の執事だった方が殿様の物をいただいて疎開していた。そのお宅にあった絵が展示され、**かねださいが？（1：41：22）**という徳川のお抱え絵師の絵を展示した。こういう展示会があるたびに新たな発見がある。高天神城物語もあるがまとめられていないので、郷土史研究には次へのステップになる。良いツールだと思うので期待してる。問題は予算的な部分となりますが、ある程度時間を使える方をボランティアとして利用して貰いたい。経験が生きてと思うし、以前も大淵にある郷土資料館の収蔵物をデジタル化する時にボランティアで協力したと聞いた。あそこにどういったものがあるのかは知らないが、図書館で検索すると分かれば資料館の意味も高まる。掛川北部だけでなく古墳も南部には色々あるので期待したい。予算はかかるが、次の世代に情報が引き継げないのは困る。一点、気になっているのが図書館にビデオやビデオデッキがあると思います。最近ではビデオが再生機器がなくなっているとすると、今あるビデオを再生する手段がなくなったらビデオをどうするのか。著作権はあるだろうが保存して欲しい。お祭り関係の資料をビデオからDVDにして欲しい。後生の人達に伝えていきたい。デジタルアーカイブは資料を集める人間としてはありがたい。その他に、映像のメタデータを誰がチェックするかが非常に重要。横須賀の殿様の歴史を研究しているが、インターネットに違う殿様の映像があった。お寺の住職に聞いてこの殿様が正しいと教えて貰った。誰がアップしたかは分からないが、誰かがチェックする必要がある。正確にデータ内容のチェックをして欲しい。図書館や郷土史家がやるかしていかなければならない。掛川三城紹介のパンフレットで横須賀城は天竜川の川石を使ったとあったが、発掘した大東図書館職員に聞いたところ小笠山山系の石で今あるのは大井川から買ってきた石だと言った。天竜川と書いてあるのでシティプロモーション課に伝え訂正してもらった。教育委員会も見ているがそういった件があった。よろしくお願ひします。

会 長 基本的に構想が甘く感じる。今の要望を図書館でデジタルアーカイブとしてやるなら資料編纂室等が必要になる。図書館の今のイメージでなにをするのか。施設や人材が必要だがみえないし、絵に描いた餅になっている。文書では進めるとあるが無理だと思う。評議委員としては認められない。アーカイブの研究で市史や郷土の資料をデジタル化しようというなら、小学生向けに少しフリガナをふったりするのは分かる。それを図書館員がやるのか。郷土史家といった専門家からクレームがあったらお手上げになる。やるなら専門家集団が資料検証をしてアーカイブする必要がある。これは10年から20年かかる事業になる。少なくとも公共図書館として市民の知の拠点为目标であるなら難しい状況と考える。これで予算化すると図書館が本来の充実すべき部分に予算が回らなくなる。今ある国立国会図書館のデジタル化資料は明治初期からの資料を数多くデジタル化している。調べる時に今までは行くしかなかったのが不要になる。そういうことをデジタル化資料を使ってできると具体的に広報していく必要がある。国立のデータから一度金色夜叉をダウンロードした。著作権がきれているので原文を見たがそれくらいしか使えない。今後研究を進めるなら研究費とする必要がある。誰が研究するのか。図書館職員がするのか。

館 長 説明しますと図書館は入れ物と考えます。図書館はオールマイティではないので、社会教育課が重要な要素となります。図書館も社会教育課も資料を持っているの文化財的な資料を含めて社会教育や他の所に資料を見て貰います。また、広報には写真があります。どの写真が何か把握しています。図書館は著作権についてチェックリストを作ります。大丈夫かを確認します。委員さんの仰るメタデータですが、それほど細かくはありません。そこから新たなものを作ってもらおうといった形です。ウィキペディアの良い点は沢山の方がチェックして出典が分かるように訂正していきます。デジタルアーカイブも出す段階でチェックしますが、ウィキペディアのような新たな発見を作ることが利点として考えます。

会 長 それは運用の問題で、その前段階として色んな部署の資料を誰が集めて、デジタル化していくのか。図書館がやるのか。協議会としては運営方針でデジタル化しますと言ってもこれは難しい。研究を進めますと変えていただきたい。緊急を要する散逸の可能性がある資料やビデオをやるならば社会教育課や市長部局と協議して新たに掛川市の歴史を確認する組織を作らないと片手間ではできません。図書館職員の半数は非常勤職員である状況を考えると新たな事業を行いながら、市民の知の拠点となるのは志はいいですが提案しても突っ込まれて終わりだと思います。資料を裁断するにも著作権がある。簡単にはいかない。何100万という費用がかかる。段階をおってやる必要がある。ウィキペディア等で公開する段階ではない。それよりも小学校の資料として葛布についてデータ化して皆が見れるようにするのはいいと

思う。少し時期尚早だと思う。研究して欲しい。

館長 これは構想なので段階的に行います。最初に入れ物を作るのがデジタルアーカイブそのものです。最初に手持ちの写真等から始めていきます。

会長 それはいいですが、誰がやるのか。ちゃんとセクションがあって資料をスキャンしていくといった具体性がない。ここで言われてもイメージがわからない。図書館内でスキャンするのか、手作業ならば誰がやるのか、部屋があるのかといった問題がある。

館長 今は大東図書館で文化財の写真をとったりしています。

会長 大東図書館の資料室でやっているのか。図書館の仕事と資料の仕事を一緒にするのはどうかと思う。一人でやっているとして、河井彌八の日記と言った資料も管理しているが膨大なことになる。組織としてやっていったほうがいい。どこでやるのか。いいことだがこれだけの提案では難しい。

館長 今の時点では社会教育課が中心です。

会長 それならば図書館とは切り離して社会教育課中心で図書館は協力として研究として貰いたい。他の方はどうでしょうか。

委員 今の点は導入するなら精査すればいい。その他に子供の関係ですが、今週から新聞でもうすぐ終わる紙の本という連載があった。最初にデジタル化しても先程のビデオの話ではありませんが私も500本位捨てました。後MDをどうするかといった問題もある。レーザーディスク等ハードの関係で再生できないものがある中、任意のページを即座に開きバージョンアップしない機能が紙の本とあった。両輪かなと思う。できることからやるべきだと思う。

会長 推進の文言は研究に変えて欲しい。

館長 こちらは1月の全協にはかる前の手続きがあり今日固めていきたいと考えますので、修正について詳細は会長と相談させていただき後の手続きを行うでよろしいでしょうか。

会長 他の方はいかがですか。

委員 2点あって、先日よみきかせがあってそこで新作を読んでいただきおもしろかったのも、その本を買いに行こうとすると子供が学校の先生がよみきかせで読んでくれたよと言いました。さすがにアンテナをはって選書していると思いました。子供は本が好きなので学校の図書室の本で読んでおり、最近では子供の方が良い本を知っています。学校で図書館の使い方を啓蒙してもらったおかげで子供達の図書館の使い方が良くなっていると思いました。

後、私の園は園児が少ないのですが、0、1、2歳が多くお母さん方も初めてのお子さんでよみきかせとは何というところから啓蒙しています。懇談会等でどうやって行かや敷居が高くはないよと初歩から伝えている。当たり前のことをゆっくりお伝えしている。大須賀図書館の司書さんに避難訓練の時に一冊本を読んでいただきたいとお願いしたり、横須賀に勤務している時は団体貸出をしてもらっていたが、小規模保育園でもお願いしていいかと確認してきた。12人でも利用者が増えたらいいなと思います。

委員 こういう御意見ならいいのですが2点あります。子どもの読書で学校図書館雑誌という大東図書館にある雑誌の2019年年1月号で学校読書量調査というのがあり本を皆読んでいる。読むのが少なくなったのは雑誌です。学校の指導等で読む子は増えている。沢山読む子が読まない子の分を引き上げている。数字マジックとも言える。いつも言うが、親の意思があり、良い本をだせば売れるが出版社が出さない。また、別のサブカルジャーナリストの記事で、ぞろりから次にいかせたいと前は言っていたが、ついにぞろりを読まなくなっている。今一番人気は科学漫画です。昔からある漫画日本の歴史といった漫画ではなくSTEMという所がだす系統の科学漫画を読む子が増えている。男の子の人気はサバイバルシリーズで女の子は漫画でよくわかるシリーズを読んでいる。確かに面白そうだが、学校や図書館でいれるに

は英断が必要。読書力といった格調高さよりも意識力といった文字に触れることが必要。土壌はできている。

委員 難しいと考える。人気の上位7割は科学漫画で次がおしりおたんてい、後は残念な生き物シリーズ。一方で教科書を読めない子が増えている。

委員 それは20分スマホから離れられない学生と同じ。

会長 図書館本来の資料は視覚優位ではなく文字を読みながら考える。デジタル化でも文字をデジタル化するだけでなく写真や図をデジタル化する。写真や図は結果のみになる。子ども達は結果を欲しがるので漫画だと結論があるので便利。文字で考えることは手数が必要。最近、9類の文学の貸出が少ない。減っている。図書館は別だが学校では図鑑や解説が多い。物語はその部分で考える部分の肥やしになるから今の子は自分が語れない。大学生が聞かれても語れない。知識は沢山ある。しかし、物語性がない。今の図書館に必要なのは基本的な物語を繰り返し身につけることではないか。もちろん入り口は楽しいシリーズでいいがオーソドックスなものに生きる力や考える力があるとしないとデジタル化が進む。大学生が1年間に本を一冊も読まない割合が70%になっている。勉強はしているがスマホでやっている今の小学校はばっちりやっているが、中学になると読書量が落ちて、高校生は教科書しか読まない、大学生は本も読まないとなっている。図書館は大事な啓発機関であり、大事なことに出会える場所であることを大事にしたい。

委員 4、5、6類が面白い。それ位面白いのを9類で出して欲しい。

会長 4、5、6だと社会とかだね。

委員 先程小学生が読んでいるとは言いましたが、本当にその1冊を読んでいるのか。何冊も借りているが、学校の10分の読書で後は休み時間で読むかというところで終わり。そこが、本や教科書を読めないに繋がる。やはり日頃の読書が必要。

会長 小学生がスマホやゲームをやる時間は一日3、4時間。家に帰って直ぐゲームでは狭い映像体験でやった気になる。体感が必要だと思う。ある親御さんが家の子どもの集中力はすごい、ゲームを5時間ずっとやっていると言う。それは集中力かなと思った。

図書館の敵ではないが対極にあるし、人間性の豊かさを育む場所として伝えていく必要がある。面白さではかなわない。ゲド戦記を今は読まないでしょう。鹿の王も読まないでしょう。

委員 今は読みません。ずっと3人組も昔の話になっている。読むのは無理となる。十二国記は高校生は読むかもしれないが中学は動かない。ラノベに負けている。

委員 ラノベも会話体で誰が話しているか分からない時がある。状況説明に終始して文学にならない。

会長 中々課題山積ですが、以上でよろしいでしょうか。今後ともよろしく申し上げます。では、進行を事務局に戻します。

主幹 その他になりますが、事務局から御案内します。第3回目ですが、色々なお話をいただいたので、1月以降に3回目を行いたいと思います。

以上をもちまして終了させていただきます。長時間ありがとうございました。